

かほく市史編さんだより

KAHOKU CITY
20th

第7号 令和6年(2024年)11月1日



▲指江区(7月20日): 夜空に激しく燃え上がる大松明を見守る地区の人々



▲内日角区(7月14日)
松明を振り回し投げ入れる若者



▲狩鹿野区(8月7日)
小松明を手に農道を行く子どもたち

「豊作の祈り「虫送り」」

稲を食い荒らす虫を追い、豊かな実りを願って行われる虫送りは、農村における夏の風物詩です。かつては、かほく市内のいくつもの地区で行われていましたが、農薬の普及や機械化、後継者不足などにより、今では内日角、指江、狩鹿野の3地区に残るのみとなりました。

どの地区も若者が中心に準備をし、笛や太鼓に合わせ子どもたちが小松明を手に農道を歩き、最後に大松明に火を点けるという行事です。以前とは形態は変わりつつも、地区ごとに創意工夫を凝らし、大切な行事を伝え残そうとしています。

かほく市史編集専門委員会 近代部会長 ごあいさつ

山本 吉次

近代部会は、明治維新からアジア太平洋戦争までを取り扱います。この間、かほく市域には目覚ましい発展もあり、また、戦時体制に組み込まれることもありました。世界と日本の歴史の中でかほく市域の歩みをたどり、また、かほく市域から世界と日本の歴史を見渡せられればと思っています。

現在、図説編の執筆に全力を尽くしております。その中で、旧の『宇ノ気町史』『七塚町史』『高松町史』では取り扱われなかった、郷土出身者の活躍も紹介したいと思っています。北海道で「網走監獄の父」と呼ばれた寺永法専と、兵庫県芦屋で大正自由教育を実践した桜井祐男です。

近代資料編の発刊は令和10年度です。近代部会では、まず新資料の発掘に努めたいと存じております。文字資料のみならず写真資料、図画資料などございましたら、ぜひ情報をかほく市史編さん室までお知らせください。

「これまでの調査から」 — 古民家調査 —

6～7月に、家主のご協力のもと、農村地域の古民家2軒の調査を行いました。調査内容の詳細は、令和9年度刊行予定の資料編「民俗」に掲載します。今後、さらに調査軒数を増やしていきたいと思っておりますのでご協力をお願いします。

《鉢伏：長田家》 正面10間、奥行き5間で、幕末に茅葺きで建てられた住居が、その後（大正の頃）「あずまだち」に改築されたことが柱の構造から明確に分かります。正面の下屋と背面側の部屋は改築時のものと思われます。



▲外観：「あずまだち」特有の大きな屋根



▲室内調査の様子：すすけた太く力強い梁が特徴

《黒川：金岩家》 正面9間、奥行き6間で、江戸時代の19世紀半ばの建築と思われます。かほく市に残る貴重な茅葺き民家で、正背面に瓦葺の下屋がついています。30年ほど前に茅葺き屋根をトタンで覆ったそうです。

▶補修が行き届いており、今も住まいとして使われています



地元の歴史を知ろう！「生涯学習講座 歴史学びコース」より

8～9月に4回にわたり「生涯学習講座 歴史学びコース」がかほく市役所で開講されました。今回の講座では、かほく市史編集専門委員で近世部会の4名の方々に、ご自身の研究や市史に関連した内容について分かりやすくお話ししていただき、参加者は熱心に聞き入っていました。

○8月28日（水）

◆講師：村上吉郎 氏（宝達志水町文化財保護審議会会長）

演題：「ニツ屋澗（ふたつやうるま）はどこ？」

澗とは川や海に作られた船着場のことで、古文書からニツ屋に澗があったことが分かりますが、現在ではそれがどこにあったか定かではありません。しかし、細瀧神社の近くにあったと推測されることを、かつての地図との比較や大海川の流路の変化を探りながら説明されました。



▶ 村上 吉郎 氏

○9月4日（水）

◆講師：安池尋幸 氏（元横須賀市自然・人文博物館学芸員）

演題：「河北郡外海の船と魚—多様な産物を運び、魚を捕る人々—」

江戸時代、高松は加賀藩お墨付きの廻船（貨物を輸送する船）の寄港地でした。その理由として、千里浜と比べ、海岸から離れるとすぐに深くなり船が近づくのに好都合だったようです。また、七塚の海岸でも、鰯など季節によって各種の魚が獲れたことや、船の構造等についても詳しく説明されました。



▶ 安池 尋幸 氏

○9月11日（水）

◆講師：本多俊彦 氏（金沢学院大学文学部教授）

演題：「加賀本多家とかほく市」

本多家は、加賀八家と呼ばれる前田家の家臣の中でも、最大の五万石の知行地（領地）を持っていました。その本多家の概要やどのような経緯で前田家の家臣となったのか、また、本多家の知行地として元女、箕打、野寺、中沼、八野、笠島地区があったこと等を詳しく説明されました。



▶ 本多 俊彦 氏

○9月18日（水）

◆講師：上田長生 氏（金沢大学人間社会研究域教授）

演題：「加賀藩の十村と藩領社会」

加賀藩の農政を考えるうえで重要な役割を果たしていたのが十村と呼ばれる家です。かほく市にも近世後期には岩佐家、林家、西田家があり、十か村以上の村々を支配していました。その十村が集まり物事を決めるための十村相談所を中心に、十村の仕組みや役割等について詳しく説明されました。



▶ 上田 長生 氏

コラム かほく市の歴史お宝

宵宮行列「ホラホイ」(白尾区)

白尾地区の秋祭りでは、4年に一度宵宮行列が行われます。前はコロナ禍でやむなく中止しましたが、今年は8年ぶりの実施となりました。宵宮行列の中心は「ホラホイ」で、高さ7mの真竹42本に幟旗を付け、音頭方の囃子に合わせて竿を上げ下げして進みます。

かつて白尾は漁業がさかんで、北海道までイカやニシン等を獲りに出漁していました。「ホラホイ節」の起源は、昭和2、3年の頃に函館の漁師の間に歌われていた「木遣り」の節を覚えてきた漁師が紹介し、その後それを華やかな節回しにしたものが定着したようです。

かつては毎年行われていたものが、多くの資金と労力を要するため2年に1回となり、やがて4年に1回となりました。

白尾区では全国的にもたいへん珍しい行列を継承していこうと、「祭礼実行委員会」のメンバーを中心に頑張っています。



▲県道白尾交差点から恵比寿神社までの約600mを、3時間半ほどかけて行進します

編さん室の歩み(活動記録) 令和6年6月～9月

6月	市内ドローン撮影3日 6/5～6, 6/8	6月8日	第1回考古部会
6～7月	古民家調査2日 6/11, 7/2	6月15日	第1回現代部会・近代部会
6～8月	寺院什物・古文書調査3日 6/27, 7/29, 8/30	6月15日	石造遺物調査
6～8月	(民俗) 聞き取り調査12日 6/10, 6/24, 7/14～15, 7/17 7/24, 8/7, 8/19～22, 8/24	6月15日	編さんだより第6号発行
7月	(現代) 聞き取り調査2日 7/1, 7/22	7月26日	第2回現代部会
7～8月	(近代) 聞き取り調査5日 7/17, 8/1, 8/9, 8/25, 8/27	8月8日	第1回近世部会
8～9月	歴史学び講座4日 8/28, 9/4, 9/11, 9/18	8月10日	第1回古代中世部会
		8月10日	第2回考古部会
		8月21日	第1回民俗部会
		9月14日	第1回編集専門委員会

＝お知らせ＝

かほく市史編さん事業の第1弾『図説 かほく市の歴史と文化』を12月に刊行します。原始古代から現代まで97項目を取り上げ、見開き2ページの中に、それぞれの専門家が執筆した分かりやすい文章ときれいな写真が満載の親しみやすいものとなっています。ご希望の方には販売もいたしますので、編さん室までお問い合わせください。

お問合せ・資料の提供はこちらまで

かほく市史編さん室

〒929-1215

かほく市高松ク4 2番地1

かほく市高松産業文化センター3階

TEL: (076) 281-3455

FAX: (076) 281-3521

E-mail: shishi@city.kahoku.lg.jp →

